

スマホサミットinひょうご2018



青少年によるインターネット利用対策

先進活動事例集



「青少年のネットトラブル防止大作戦」推進会議



つくろ! ネットのルール
守るのは、君だ!



公益財団法人兵庫県青少年本部、兵庫県、兵庫県警察、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会
兵庫県PTA協議会、兵庫県青少年団体連絡協議会、県立神出学園、県立いえしま自然体験センター
兵庫県立大学、神戸親和女子大学、こころ豊かな人づくり500人委員会阪神南OB会
幸地クリニック、株式会社神戸新聞社、株式会社サンテレビジョン、日本放送協会神戸放送局
株式会社ドコモCS関西

1. 湊翔楠中学校携帯電話・スマホの利用についての取り組み

～「いじめ防止小中地域会議」の活動を通して～

2. 活動趣旨・目的

- ①携帯電話やスマホの利用によるトラブルに巻き込まれないよう、ルールを定め、実践できる子供主体の運用を展開
- ②不適切な利用によるトラブルの未然防止
- ③メールやSNSなどをめぐるいじめの未然防止と撲滅
- ④中学生にとどまらず、ホームページなどを利用し、校区内の小学生や地域関係者などへの啓発活動

3. 活動内容

神戸市の各校で取り組んでいる「いじめ防止小中地域会議」を活用し、学校と保護者・地域の関係を図りながら、児童生徒の自主的な取り組みを推進。

- ①2016年度、生徒会が中心となり、以下の携帯電話・スマホの利用についてのルールを策定。

- 自分の発言に責任を持つ
- 22時以降、携帯電話を触らない
- 相手のことを考える

- ②2017年度、「いじめ防止小中地域会議」で、小中学生、保護者、地域関係者とともに以下の校区内スローガンを策定

「おもしろ半分・自分勝手な気持ちをなくそう ～相手の気持ちを考える～」

- ③毎年、少年サポートセンター職員などを講師として、「非行防止教室」で携帯電話・スマホの危険について学んでいる

- ④今年度、7月、2年間の取り組みを受けて、「いじめ防止小中地域会議」で意見交換を行う。以下のような意見が出た。

- メールやLINE、SNSなどで嫌な思いをしたことがないか。
 - ・既読無視にうるさい人がいる。
 - ・グループで攻撃される。
 - ・間接的ないじめ、悪口
 - ・誰かの写真を勝手にアップロードしている。
 - ・本気と冗談の境目がわからない。
 - ・どうしようもない外見や能力のことを言われる。 など

○対策として

- ・人の気持ちを考えたうえで、責任を持って行動する。
- ・人に連絡する時間を決める。
- ・大事なことは直接伝える。
- ・言葉をよく考える。
- ・「忙しいから、またあとで」とはっきり伝える。
- ・個人情報についてしっかり考える。 など

- ⑤2学期以降、各校の実情に応じて、ポスター作成などの啓発活動を展開

○中学校

- ・生徒会執行部、クラス代表が集まる会議で内容の確認を行い、クラス広報。
- ・文化祭での生徒会展示による広報、啓発活動 など

○小学校

- ・全校集会などで広報、6年生を中心とした啓発活動 など



4、湊翔楠いじめ防止小中地域会議（2018年7月27日実施）

①参加者	神戸市立湊翔楠中学校生徒会執行部	8名	PTA 2名	校長	教諭 5名
	神戸市立湊小学校6年生児童代表	8名	教諭 3名		
	神戸市立神戸祇園小学校6年生代表	11名	PTA 2名	教諭 1名	
	地域団体代表	2名			

- ②内 容
- いじめ防止の取り組みについて中学生と小学生、地域が意見交換を行う。
中学校が中心となり、校区内の小学校といじめのない明るいまちづくり等を目的とした児童生徒の主体的な取り組みを計画し、実施する。

13:00 【全体会】図書室集合完了

はじめの言葉（生徒会長）

中学校長あいさつ

活動内容の確認（生徒会執行部）

自己紹介

13:20 活動① 神戸市あいさつソング『ほら、つながった』を歌う。

（歌唱指導：中学生）

13:30 活動② A メールやLINEなど、携帯電話やスマホで嫌な思いをしたこと

B 何気ない一言で傷ついたこと

グループごとに意見交換

グループごとに小学生による全体発表

14:15 活動③ 対策案についてグループごとに意見交換

グループごとに小学生による全体発表

15:40 講 評、指導助言等（中学校長）

アンケート記入

16:00 解 散

活 動 事 例

兵庫県立東播磨高等学校放送部

1 タイトル **放送部だから、動画で広める！「スマホの正しい使い方」**

2 活動の趣旨・目的

本校では今年からスマホの校内持ち込みが許可された。登下校の安全や保護者との緊急連絡のためである。ただし、校内での使用は禁止され、常にマナー指導も実施されている。それでも生徒の中には、家で長時間スマホをいじったり、SNSへの書き込みに夢中になって、勉強がおろそかになる者もいるようだ。おそらくスマホの危険性を呼びかけても、自分のこととしてとらえられないのだろう。どうすれば、もっと身近な危機としてとらえてもらえるのか。私たちは、放送部の動画作成技術をいかして、スマホのマナー向上を呼びかけることにし、インターネットやスマホの安全・安心に関する動画制作を始めた。

3 活動内容

- ① **「SNSの間」** 昨年、総務省・近畿総合通信局・スマホ連絡会主催の「インターネットの安心・安全に関する動画フェスタ2017」に初めて応募した。これは同大会で審査員特別賞を受賞し、現在もYOUTUBEで公開されている。

☆ストーリー 友達に誘われて、最初はおそろおそろSNSに画像を投稿した「あかり」だったが、だんだんその感覚に麻痺してしまい、いつもスマホばかりいじるようになる。知らないうちに友だちづきあいも悪くなり、気づけばひとりぼっちになっていた。でも、もうあの頃には後戻りできなくなっていた。



- ② **「紙袋の中身」** 今年、第65回NHK杯全国高校放送コンテストの創作テレビドラマ部門に応募。兵庫県大会で上位入賞して全国大会に出場、東京の国立オリンピック記念青少年センターで、全国のたくさんの高校生に見てもらった。



☆ストーリー 太一はいつも紙袋をかぶって素顔を見せない。顔は個人情報だと言って中学の時から誰も素顔を見たことがないらしい。なんと卒業アルバムも紙袋のまま

写っているのだ。実は小学生の頃いじめにあっていた太一は、紙袋をかぶることで自分の意見がはっきり言えるように変化した。普段はおとなしいけど、ネット上で匿名なら偉そうなことを言う心理と同じらしい。でも、仲間とのつながりを通して、匿名でこそ意見言うのは良くないことに気付く。



- ③「スマホ男子」 昨年に続いて、総務省・近畿総合通信局・スマホ連絡会主催の「インターネットの安心・安全に関する動画フェスタ2018」に応募した。

☆ストーリー スマホ依存でいつもスマホをいじっているスマホ男子「悟」が、たまたまぶつかったことで知り合った女の子「蘭」とつきあい始める。でもスマホ男子は、告白も直接ではなくスマホ、そして内緒で蘭の写真をネット上にアップしてしまう。それを知って怒る蘭。「私とスマホとどっちが大事？」と言われてしまう。謝ってなんとか仲直りしたのだが、実は蘭も悟の写真を無断でネット上に公開していたことが判明する。



- ④以上のような作品を今後も制作し続けるとともに、文化祭などの学校行事や地域のイベント等でも広く見ていただけるようにしていきたいと考えている。

4 アピールポイント

- ①何よりも、動画なので気軽に見られて、伝わりやすい！
- ②一度にたくさんの人に伝えることができる。実際に動画フェスタやNHK杯では広い会場やネット上において、たくさんの方に見てもらうことができた。
- ③高校生自らが脚本を書くため、主体的に資料を集めたり、取材をしたりする中で、自分たち自身の意識を向上させることができた。

広げようスマホサミットの輪

1. 団体名 芦屋市立精道中学校

2. 活動の趣旨

芦屋市では、これまで市内の各学校の代表（中学校から各3名、小学校から各1名）が参加し、「芦屋スマホサミット」を実施してきた。その中では、「スマホの良いところ、悪いところ」をテーマとしてグループ協議を重ねるとともに、市内全小学4年生から中学3年生を対象に、実体把握のためのアンケートを実施し、その結果を受けて、芦屋市スマホ3カ条を策定し、その普及啓発動画等の作成にも取り組んできた。

取組の3年目となる今年度は、これまでの市の取組を学校独自の活動へと広げていくことを目標とした。具体的には市のサミットに参加してきた生徒会のメンバーが取組をリードし、スマホ所持率が一番高かった（男子60.2%、女子70.4%）2年生を対象にスマホやネットの問題について考えていく機会を設けることで、自分たちの課題を主体的に解決していく力を育成していきたい。また、その取組成果を全校に発信していくことで、生徒のスマホ依存による健康被害やネットの不適切利用によるトラブルを防止していきたい。

3. 活動計画

- (1) 本校生徒のスマホアンケート結果のデータ分析・考察
- (2) 全校生を対象としたスマホ講演会の実施
- (3) スマホによるトラブル事案の啓発動画の作成と発表
- (4) スマホ新聞の作成と発表

4. 取組内容

(1) 啓発動画の作成の取組

生徒会のメンバーを中心に、LINEをめぐってこれまで自分たちが実際に体験したトラブル事例を啓発動画にまとめ、文化発表会で発表

事例1「退会」

突然、Aさんは退会させられてしまいました。その後、グループ内でAさんの悪口が次々と書き込まれていきました。グループ内には、Aさんのことを「可哀そう」と思う人もいますが、誰もそれを言い出しません。何故？答えは簡単です。自分がAさんになるのが怖いのです。

事例2「既読スルー」

グループ内で楽しい会話中、突然、Aさんが「明日の時間割を教えて！」と書き込みました。既読の数は20を超えているのに誰も教えてくれません。Aさんは「どうして教えてくれないの？」と腹立たしく思っています。さて、その時のグループの人たちの思いは？

事例3 「乗っ取り グループあらし」

ある日、Bさんがグループ内に皆が知らない人を何人も招待しました。その後、その人たちによる勝手な発言が繰り返されていきます。グループ内のCさんが見かねて、止めるよう抗議しましたが、反対に攻撃的な言葉が返ってきます。グループのメンバーは、嫌な気持ちでそのやり取りをしています。



上記の3つの動画とそれを補完する劇をスマホアンケートの分析結果と共に披露し、「スマホの使い方、間違っていないか？」と全校生徒に問いかけた。

(2) スマホ新聞の作成と発表

本校のスマホアンケート結果より、以下の3点に着目し、新聞を作成し掲示

○「時間」：ネット接続時間とイライラや自信との関係

(普段3時間以上ネットに接続している ⇒ 男子 22.6%、女子 27.6%)

○「危険」：スマホの所持率とネット上に潜む危険

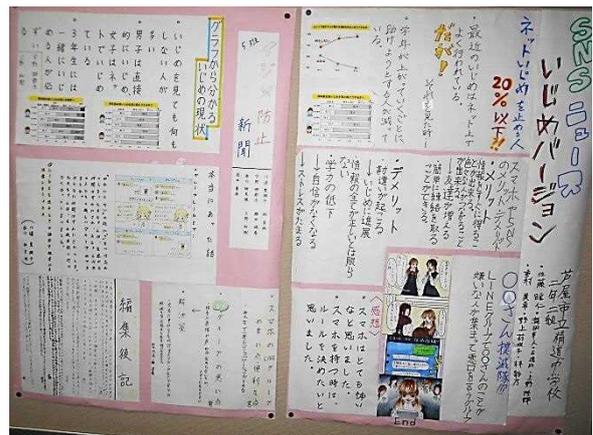
(ネット上での喧嘩、5000円以上の課金、面識のない人と実際に会ったことがある)

○「ネットいじめ」：いじめはいつ起こるのか

(ネットで悪口や嫌がる投稿を見つけたとき、自分はどうか。

⇒ 「何もしない」が 72.3%)

生徒の感想 ネットトラブルがあることは知っていましたが、自分には関係ないことだと思っていました。今回の活動を通して、ものすごく怖いことが身近で起こっていることに気づきました。便利の裏には、絶対リスクがあることを頭に入れて、生活していきます。



5. 今後の啓発活動

生徒会の活動として、学校の保護者会や地域の方々が集まる会の中で、啓発動画、アンケートの分析やスマホ新聞を活用して、広く取組の啓発を進めていく。また、市のサミットにも本校の取組を紹介・還元する。

活 動 事 例

兵庫県立大学附属高等学校 情報モラル委員会

① 校内スマホ3か条（スローガン）の作成

- ・ 中高生の間で必要不可欠になっているスマホを適切に使用し、トラブルに巻き込まれないようにするために、自分たちでできることを中心に考察。
- ・ 事前に全校生徒（附属中学校を含む）約700人におこなったアンケート結果より、大きく3つの項目に分けてスローガンを作成。
- ・ 3か条については通信として各クラスに配布、掲示することで全校生徒に周知。

○再確認 ～自分の言葉に責任を～

○適切使用 ～周りを考えて使おう～

○自己防衛 ～あなたの情報大丈夫？言わない、書かない、流さない～

② 校内啓発動画作成

- ・ 3か条について、よりわかりやすく伝える方法はないか考え、動画を作成することを決めた。
- ・ シナリオ、演出、撮影、編集全てを自分たちで行った。
- ・ それぞれの内容に沿った具体例を考え、県警訪問で高校生のスマホトラブルについて学んだことをふまえてシナリオを作成。
- ・ 校内だけではなく、近隣の小中校生に対してもわかりやすい内容を考察。



③ 県警訪問

- ・ 実際に高校生が被害にあっている事例等を学ぶために県警訪問を依頼。
- ・ 県警から許可をいただき、8月16日に生徒5名が訪問。
- ・ SNS等のネット上の問題だけではなく、事件前後の被害者・加害者の内面的な部分まで教えていただいた。
- ・ 巻き込まれないために注意することや相談窓口等についても教えていただいた。



④ 近隣小学校への出前授業

- ・ 県警訪問を終え、小中学生も事件に巻き込まれていることを知り、ぜひ近隣の小中学校と SNS の危険性や安全に使う方法を共有したい。そこで、播磨高原東小学校にお願いをして、情報モラルについて出前授業を実施。
- ・ 自分たちで作成した動画を小学校 4～6 年生にわかりやすくアレンジしたパワーポイントを作成し実施。
- ・ 小学生も近隣の高校の先輩が教えてくれたことで理解が深まったと好評をいただいた。
- ・ 自分たちも初めて人に教える立場になり、知識を人に伝えることでさらに深い学びを得ることができた。



⑤ 高校教員に向けた情報モラル研修の実施

- ・ 高校生が日々使用している SNS やアプリの使い方と、考えられるトラブルについて先生方にも知っていただきたいと思い、教員向けの研修を実施。
- ・ LINE、Twitter、Instaglam、Tik Tok についての研修をおこない、生徒内での使用頻度やトラブルの原因となりうる事例を説明。
- ・ これらの SNS やアプリを知らなかった教員も多く、今回の研修で生徒の現状を把握するいい機会になったと言う意見をいただいた。



ネット・スマホとのつきあい方

1 ねらい

- ・児童がネット・スマホに潜む危険性を知り、安全安心に使用できるようにする。
- ・保護者がネット・スマホに潜む危険性を理解し、保護者自身と子どもの身を守ることができるよう啓発する。
- ・携帯・スマホを長時間使うと学習効果が低下するという、東北大学 川島隆太教授の脳科学理論を児童・保護者に周知し、適切に使うことができるようにする。

2 活動内容

(1) 安全安心なネット・スマホの使用について

①「サイバー教室（講演会）」の実施

外部講師を招き、小中連携したサイバー教室を開いた。本校は、5・4制の施設分離型の小中一貫校であるため、当初は、3～9年生の7学年にわたる児童生徒が同じ会場で話を聞いていた。しかし、ネット・スマホを使用する児童の低年齢化や児童生徒の発達段階を考慮し、今年から小学校・中学校の2会場に分けて開催している。（なお、5・4制のため、6年生は一年間を通じて中学校校舎で生活している。）

このことにより、小学校1・2年生も、ネットやスマホにかかわるトラブルやマナー、絶対にしてはいけないこと等について話を聞くことができた。

また、小中学校会場ともに、親子で責任がとれる行動がとれるように、保護者にも参加していただいている。児童生徒と一緒に話を聞いた後で保護者のみを対象として、実際にスマホを操作しながら、個人情報が出ししない設定の仕方、児童生徒による投稿の事例、トラブル等について具体的に保護者が学んでいる。

②生活アンケートによる使用状況等の把握

年間5回、いじめや生活習慣、ネット等についての生活アンケートを実施している。ネット・スマホ関係は、以下の7項目で4択で答えるようになっている。

ア スマホやタブレットを持っているか。

イ 9時以降にスマホやタブレットをさわることがあるか。

ウ インターネットや通信（動画視聴含）を1日1時間以上することがあるか。

エ 1日平均何時間使用するか（学校のある日）。

オ 〃（休みの日）。

カ 個人情報（名前・住所・電話番号・動画・写真）を発信することがあるか。

キ 嫌なメールが届いたり、いやな書き込みをされたりすることがあるか。

このアンケートから、最近はやっている「ダンスの動画投稿サイト」へ動画を投稿している児童が低学年と高学年に数名ずついることがわかった。サイバ

一教室で話を聞いたことと自分自身のことが結びつかず、「どうしてだめなの？」という感じであった。児童本人へは、危険性について指導した。そして、保護者には、子どもの行動の注視とともに、安全安心な使用について伝えた。

また長時間の使用は、以下（2）に述べる観点から啓発と指導をしている。

(2) 学習効果を打ち消さないネット・スマホの使用について

①「長時間の携帯・スマホ使用が学習効果を打ち消す」という川島隆太教授の理論をもとに、児童・保護者へ啓発する。

【児童】

- ・資料をもとにした学習を行う。(図1)
1時間以上すると、学習していないのと同じか、それよりも悪くなる。
- ・「1日1時間以上、ゲームやネットをしない」という「やくそく」をつくり、適切な使い方を指導する。
- ・川島教授の講演会に市内の5年生全員が参加し、脳科学理論を学ぶ。

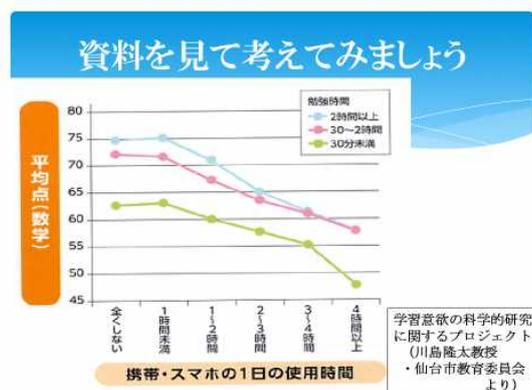
【保護者】

- ・学校だよりの特別号を出し保護者に啓発する。
- ・小野市著作のYouTube「川島隆太ショート・セミナー」で保護者に脳科学理論の啓発を行う。

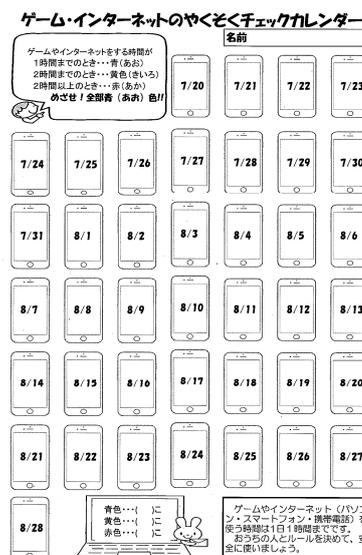
②アンケートにより、児童のネット・スマホの使用時間を把握し、保護者とも懇談会等で話し合う。

- ・長時間使用している児童への指導
- ・データをもとに学級懇談会での話し合い

③長期休業中は、ネットやスマホをした時間を記入するカードで、1時間以上ゲームやネットをしていないかを児童自身がチェックする。(図2)



(図1)



(図2)

3 おわりに

ネット・スマホは、私たちの生活に猛烈な勢いで入り込み、使用しない生活が考えにくい状況にもなりつつある。サイバー教室で講師が「お父さん・お母さんの方が、きみたちよりもスマホをしていると思う人」と尋ねられた時、多くの児童が挙手をした。児童への指導は言うまでもなく、保護者への啓発がより大切な時期になっているとも言える。機会をとらえて、保護者への周知・啓発を続け、安全安心な使用、学習効果を打ち消さない使用ができるよう取り組んでいきたい。

活 動 事 例

(団体名：神戸市立渚中学校)

1. タイトル『渚中学校情報モラル育成プロジェクト』

2. 活動の趣旨・目的

昨今、さまざまな情報機器の急速な普及にともない生徒たちにとってもスマートフォンやタブレットが身近な存在となっている。中学生にスマホは必要か、不要かという二者択一を決めるのではなく、適切に利用するためにはどうしたらいいかを自主的に考え、スマートフォンやタブレットの安全利用のための心構えやルールづくりを目的として取り組む。

3. 活動内容

- 1月30日 全学年対象に、NTTドコモ・警察・学校が連携した情報モラル教室を実施。
- 2月中 2年生対象に、平成30年度「情報通信の安心安全な利用のための標語」を募集、応募。
- 2月27日 渚中学校にて、いじめ防止小中地域会議を実施。生徒会執行部の生徒から、これまでの活動を保護者・関係機関・地域の方に報告。
- 3月15日 文部科学省全国安心安全ネットフォーラムに、生徒会執行部の生徒が参加。
- 4月19日 3年生対象に、Softbank教材「みんなで考えよう、ケータイスマートフォン」を使用し、道徳授業を実施。
- 5月18日 全学年を対象に、東部少年サポートセンター所長による「ネットトラブル講習」を実施。
- 5月29日 なぎさ小学校にて、小中の児童・生徒で作成しているいじめ防止DVDの内容を検討。昨年度に引き続き、SNSトラブルの内容を扱うことを確認。
- 6月 1日 平成30年度「情報通信の安心安全な利用のための標語」総務省近畿総合通信局賞を受賞。
- 6月 2日 神戸国際会館にて、生徒会執行部の生徒が、「スマートスマホ都市 KOBE2018」ケータイ・スマホワークショップ参加。
- 6月中旬 ケータイ・スマホ使用アンケートを全校生で実施。その際に渚中学校「携帯・スマホ等の使い方 10のルール」を再度確認。
- 6月17日 ブルメールHAT神戸店にて、生徒会執行部の生徒が、吹奏楽部とともに、いじめ防止啓発活動とネット利用の自主ルールの内容を記載したビラとティッシュを地域住民に配布。
- 6月24日 兵庫県立のじぎく会館にて、生徒会執行部の生徒が、第1回ひょうごケータイ・スマホワークショップに参加。
- 6月29日 渚中学校にて、いじめ防止小中地域会議を実施。生徒会執行部が、ネット利用の自主ルールやいじめ防止DVDでSNSトラブルの内容を扱うことを、保護者・関係機関・地域の方に説明。
- 7月29日 コミスタ神戸にて、生徒会執行部の生徒が、「スマートスマホ都市 KOBE2018」ケータイ・スマホワークショップ参加。
- 7月30日 青少年のインターネット利用対策啓発街頭イベント「つくろう！ネットのルール 守るのは、君だ！」に生徒会執行部が参加。三宮センター街携帯電話販売店前で啓発活動を行う。
- 8月 5日 兵庫県農業会館にて、生徒会執行部の生徒が、「スマートスマホ都市 KOBE2018」フォーラム参加。取組発表で最優秀賞を受賞。
- 8月27日 なぎさ小学校にて、小中の児童・生徒で作成したいじめ防止DVDを視聴し、意見交換。
- 9月 3日 生徒会執行部の生徒による「インターネットの使い方講座」を本校生徒に実施。兵庫県立大学環境人間学部ソーシャルメディア研究会がアドバイザーとして参加。

- 9月10日 動画フェスタ in 近畿 2018 に、生徒会執行部が作成した動画を応募。
- 10月7日 兵庫県民会館にて、生徒会執行部の生徒が、第2回ひょうごケータイ・スマホワークショップに参加。
- 10月14日 シーサイドプレイスウエスト秋祭にて、生徒会執行部の生徒が、吹奏楽部とともに、いじめ防止啓発活動とネット利用の自主ルールの内容を記載したビラとティッシュを地域住民に配布。
- 10月～11月 いじめ防止 DVD（ネットトラブルの内容を含む）を用いた授業を全学年実施。
- ①DVD を各クラスに配布、視聴。視聴後アンケート記入、集計。
- ②アンケート結果を見て、話し合い・感想を記入。その際に昨年度作成した渚中学校「携帯・スマホ等の使い方 10 のルール」を再度確認。

今後の予定

- 12月3日 渚中学校にて、ふれあい懇話会で東部少年サポートセンター所長による「ネットトラブルの現状について」講話をしていただき、地域の方・保護者に生徒の取り巻く環境と現状を理解していただく。
- 12月12日 2年生を対象に、NTT ドコモ「スマホ・ケータイ安全教室」を実施。
- 12月中旬 なぎさ小学校にて、小学6年生対象に生徒会執行部の生徒による「インターネットの使い方講座」を実施。
- 12月16日 第3回ひょうごケータイ・スマホワークショップおよびスマホサミット in ひょうごに、生徒会執行部の生徒が参加。
- 12月22日 ブルメールHAT神戸店にて、生徒会執行部の生徒が、吹奏楽部とともに、いじめ防止啓発活動とネット利用の自主ルールの内容を記載したビラとティッシュを地域住民に配布。
- 12月25日 生徒会作成の地域広報誌にて、これまでの活動を掲載。小学校・中学校・地域に配布。
- 2月中旬 3年生を対象に、兵庫県立大学環境人間学部ソーシャルメディア研究会と連携した「情報モラル教室」を実施予定。
- 2月26日 渚中学校にて、いじめ防止小中地域会議を実施。生徒会執行部の生徒から、これまでの活動を保護者・関係機関・地域の方に報告。

4. アピールポイント

- ・関係機関や企業による啓発活動により、様々な視点から生徒のインターネット利用や情報モラルについて考える機会となり、生徒の心情の変化や育成につながった。
- ・ひょうごケータイ・スマホワークショップやスマートスマホ都市 KOBE2018 フォーラムに参加したことにより、小・中・高等学校の他地域や年齢の違う人と交流することにより、新たな発見や課題について理解することができた。
- ・渚中学校となぎさ小学校は1小1中という密接な関係から、生徒自ら児童に「インターネットの使い方講座」を実施することにより、より身近でわかりやすく感じることできた。
- ・地域や保護者への啓発活動を実施し、情報発信を積極的に行った。

5. 課題

- ・今までの本校の情報モラル教育は、各学年により散発的で一貫性に乏しかった。また、学級間や学年間での温度差もあった。渚中学校情報モラル育成プロジェクトを始めた平成29年度からは、ある程度学校全体で取り組んでいる。今年度は、関係機関の援助のもと、学校全体に広めるため、生徒主体の活動を増やした。来年度以降もより系統立てて実施し、生徒の情報モラルの育成に努める必要がある。
- ・今後も情報モラル教育は、保護者との連携・協力が不可欠なため、生徒と同様に保護者を対象とした取組も引き続き必要である。また、より効果的な保護者・地域への発信を検討する必要がある。

活動事例

神戸市立西落合中学校

1. (仮題)「かにっ子ネット利用ルール作成」

- 本校区は、2小1中である。神の谷小の「か」、西落合小の「に」を取って、「かにっ子」というネーミングが定着している。

2. これまでの取り組み

- 各校のいじめ防止に関する計画、取組の発表や報告。
- グループを作り、ソーシャルスキルトレーニングを実施。
- いじめ防止の標語、スローガン等を作成。
- 情報モラルに関する勉強会、意見交換、ルール作り。
- 街頭でいじめ防止啓発活動。
- 地域の方からは、助言をいただいた。
- 学校いじめ防止基本方針の変更点の周知。
- 毎年、中学校がスローガンを制定し、それを共通理解して、地域の小中学校で一年間使用。
- 地域の「いじめ防止三原則」の作成。

本校では、いじめ防止の取り組みを通して、小中が連携して4年間取り組んできた。上のような取り組みの中で、昨年度、「『いじめ』がスマホを通して行われていることが多いのではないか。」という生徒の感想があり、まず、スマホの所持や使用時間等の実態調査を行った。その結果、ラインにおけるグループ外しといった問題が挙げられた。それ以外にも、ゲーム依存が心配されるアンケート結果や、思った以上に使用時間が長いことも分かった。また、スマホだけでなく携帯電話、インターネット、ゲーム、テレビ等のマスメディアも含めて利用を見直す必要性を感じた。今年度は、いじめなど問題行動の未然防止の観点から、小中が連携してスマホや携帯電話、ネット等の使用ルールについて話し合い、ルール作成を目指したいと考えている。

昨年度のふれあい懇和会の様子。スマホ&携帯電話の使用状況のアンケート結果を報告しているところ。



3. 活動内容

- 9月 中学校で意識調査を実施
意識調査を受けて、学級委員会、各専門委員会、学年協議会、全校協議会で検討
- 10月 話し合いの結果、共通のルールを作成
作成した共通のルールを持ちより小中で意見交換
- 11月 決定したルールを全校生徒に発表

4. 今後、期待できる効果

- 各校の取組を知ることにより、小中連携を円滑に進めていけることが増える。
- 他校の取組を知ることにより、自校の取組を振り返り、今後に生かしていくことができる。
- 共に考え、活動することにより、子供たちに連帯感が生まれる。
- 携帯電話、スマートフォン等のトラブル案件が減少する。
- 出席者からの様々な意見や助言が、子供たちの励みとなる。
- 地域への情報発信をすることで、学校事情を理解していただけるようになる。
- 児童生徒のスマホ利用等の実態把握に役立つ。
- 生徒会執行部の生徒の活躍を見た小学生にあこがれや尊敬の気持ちが生まれ、入学への希望や期待を育むことができる。
- 携帯、スマホのルール作りでは、9年間の見通しを立てて作成することができる。
- 情報交換をていねいに行うことで、各校の抱える課題が見える。
- 小中で一つのルールを策定することにより、連携した指導体制で取り組んでいけるようになる。

活動事例

神戸市立太田中学校

1. タイトル

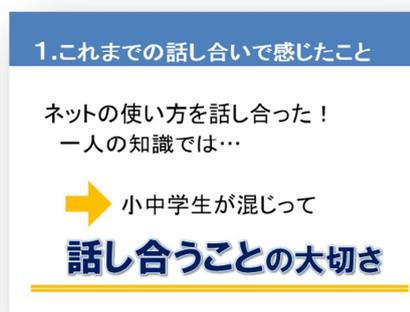
「スマートスマホ都市 KOBE」フォーラムなどのネット利用に関する取り組み参加

2. 活動の目的

- ・ ネット利用に関する取り組みに参加することで、ネットを利用するうえでの対策を考え、被害削減のための啓発に対する意識を養う
- ・ 生徒自身で話し合い、解決に向けたルールを定めることで子どもたちの主体性を深める
- ・ 年代を問わず様々な児童生徒と関わる中で、ネット利用における背景を考えさせる

3. 活動内容

- ・ 6月2日 フォーラム成果発表にむけて①
各中学校の生徒がスマホ・ネットの使い方を話し合い、課題を見つけた。
→啓発劇をつくり、動画をテレビで発信することに決定した。
- ・ 7月29日 フォーラム成果発表にむけて②
注意喚起したい内容を話し合い、劇を作成した。
- ・ 7月30日～8月4日
昼休みや放課後の時間を利用し、取り組みに参加して感じたことを参加生徒同士で話し合い、意見を出し合った。
→意見をまとめ、啓発する内容をパワーポイントを使って作成した。
- ・ 8月 「スマートスマホ都市 KOBE」フォーラム 参加
作成したパワーポイントを使って小中学生や大人にむけて啓発を行った。参加した生徒たちは自他の学校の発表を通して、「子どもたちだけでなく大人も含めてネット利用の状況や改善策などを討論する必要がある」と口にしていた。



4. 今後の活動

- ・ 学年内や全校生徒に向けての取り組み発表を行い、ネット利用における啓発を行う。
- ・ 様々な取り組みに参加することで、参加した生徒同士の交流を深める。

横尾すまいるサミット2017要項

1. 目的

- ・横尾中学校区に住んでいる小中学生が、地域をよりよくするために知恵を出し合い、「ふれあい懇話会」において、児童生徒の意見を発表する機会を作る。
- ・児童会、生徒会役員が顔を合わせ、話し合う機会とする。

2. 日時

平成28年7月24日(月) 14:00～15:00

3. 場所

神戸市立横尾中学校 PTA室

4. 構成メンバー

- ・横尾中学校：生徒会執行部員 生徒会担当教員 生徒指導担当教員
- ・横尾小学校、妙法寺小学校：児童会役員（4名） 児童会担当教員 生徒指導担当教員

5. 話し合いの内容

- ① 自己紹介と学校自慢（各学校ごとに分かれて着席）
 - ② 携帯・スマートフォンの使い方について（各校1人ずつ4グループに分かれて着席）
 - ・議題 ①どのようなことが「いじめ」につながるか
 - ②携帯・スマートフォンによる被害に会わないために（→ルールの方策）
 - ※各班で話し合い、ルールの案を出し合う
 - ・ルールの策定
 - ※各班で考えたルールを出し合い、全体で1つのルールを決めていく
- ③ 学校を超えて、互いの学校に聞きたいこと（4グループに分かれたままで）

6. 発表内容 ～ふれあい懇話会～（12月11日（水）15:30～）

- ・上記②に参加した生徒それぞれでまとめて、「ふれあい懇話会」において、中学校生徒が発表する。

7. その他

- ・この会は「いじめ防止小中地域会議」を兼ねるものとします。

『スマートフォン』のルール

先日、横尾中学校で行われた横尾スマイルサミットでのスマートフォンの使い方についての意見をまとめ、スマホ・ルールを決めました。以下がルールの内容です。

1. 知らない人とやり取りをしない
2. 位置情報と個人情報を載せない
3. 時間を守る（8、9時頃まで）



4. お金の上限を決める
5. 顔写真を載せない
6. 不要なメッセージ・スタンプを送らない

自分を守るため、周りの人に迷惑をかけないためにも、ルールやマナーを守ってスマートフォンを使って下さい。

横尾中学校 生徒会

日月日の全ページ、翌日の台紙で説明に配布可能な紙を添付可。

委員長が配布するの2日、よろしくお願ひ可。

平山

活動事例 (団体名：神戸市立太山寺中学校 放送部)

1 タイトル

『インターネットの安心・安全に関する動画フェスタ2018に応募して』

2 活動の趣旨・目的

最近の中学生は、携帯電話やスマホが身近にある。それらのツールを使えば、いつでもどこでもインターネットで会話もできる、ショッピングもできる、ゲームもできる。わが校の放送部員も昨今、大きな社会問題化しつつあるインターネットによるトラブルについて大変興味があり、『インターネットの安心・安全に関する動画フェスタ2018』にむけて、インターネットへの理解を深めるとともに、動画制作を行った。

わが校の放送部の1, 2年生を6班編成し、テーマは次の通りである。

○ 自転車に乗りながらのスマホ・歩きスマホをやめよう

自転車乗車中や歩行中にスマホをしていると、最悪の場合事故に遭い、相手も自分も取り返しのつかないことになるという動画。



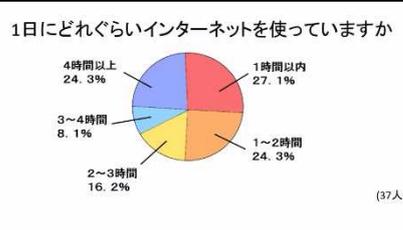
○ スマホゲームの課金の怖さ

スマホのゲームに夢中になり、ゲーム内での課金を繰り返し高額の請求書が自宅に届くという動画。



○ インターネット依存症

インターネット依存症の若者が増えてきている。インターネットはいろいろなことを調べられて便利だが、使い方には注意しましょうという動画。



○ ネットショッピングトラブル

ネットショッピングをしたら、頼んだものの写真と違うものが来たので、騙されないようにしようという動画。



○ SNSでのトラブルと依存症

SNSで無断転載をして、誹謗中傷の対象になってしまい、自分のSNSから住所などの個人情報特定されて現実に被害に遭ってしまうという動画。



○ スマホ依存と現実の友達関係

スマホ依存になった中学生が、現実の友達関係と疎遠になっていくドラマ。

